

令和6年度「全国学力・学習状況調査結果」概要 ～阿南市小中学校における学力の傾向と対策について～

阿南市教育委員会

この資料は、令和6年度全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、阿南市の子どもたちの学力や学習状況の傾向をまとめたものです。

1 調査の概要

- 調査目的
 - ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・この取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査対象 小学校第6学年の児童、中学校第3学年の生徒
- 調査事項及び手法
 - ・教科に関する調査：国語、算数・数学
 - ※次の内容を一体的に問うもの
 - （常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等）
 - （知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力）
 - （様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等）
 - ・質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問
 - ※本年度の主な調査項目
 - （挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）
 - （地域や社会に関わる活動の状況等）
 - （ICTを活用した学習状況）
 - （主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況）
 - （学習に対する興味・関心や授業の理解度等）
- 実施日時 令和6年4月18日（木）
 - 【小学校調査】
 - 1時限目（国語：45分） 2時限目（算数：45分）
 - 児童質問紙（20～40分）
 - 【中学校調査】
 - 1時限目（国語：50分） 2時限目（数学：50分）
 - 生徒質問紙（20～45分）

2 小学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均よりやや上回りました。
- 2 算数では、正答率が全国平均よりやや上回りました。
- 3 無解答率は、国語・算数ともに全国平均より低くなっていました。

② 結果分析等の概要

□ 国 語

○調査問題の主な内容

- ・オンラインで交流する場面での、話し方の工夫として適切なものを選択する。
- ・文章に書く内容を決めるために、どのように考えたのか説明したのとして適切なものを選択する。
- ・文章の空欄に入る内容を、資料の内容をもとにして、与えられた条件に合わせて書く。
- ・物語を読んで心に残ったところとその理由を、物語から言葉や文を取り上げて、与えられた条件に合わせて書く。
- ・漢字を文の中で正しく使う。

◆成果が見られる点

- ◇「言葉の特徴や使い方」に関する問題では、送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができています。また、話し言葉と書き言葉のちがいなど、文章の種類とその特徴について理解することもできています。
- ◇「読むこと」に関する問題では、人物像や全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができています。
- ◇「話すこと・聞くこと」に関する問題では、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討したり伝えたいことを明確にしたりできています。

◆課題が見られる点

- ◇事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方などの表現を工夫することに課題があります。
- ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題があります。
- ◇文中における、主語と述語の関係を捉えることに課題があります。

◆指導改善のポイント

- ◇学習活動だけでなく、学校生活での様々な場面で自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫させる必要があります。
- ◇「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の様々な言語活動において、自分の考えが伝わるように資料を活用するなど表現の工夫を意識させる必要があります。
- ◇日常生活の様々な場面を通して、主語と述語の関係について理解できるように指導する必要があります。

□ 算 数

○調査問題の主な内容

- ・問題場面の数量関係を捉え、問題場面を表す式を選択する。(数と計算)
- ・計算のきまりや計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察したり、式や言葉を用いて記述したりする。(数と計算)
- ・見取図や展開図から立体の辺や面を捉えて長さや面積、体積を求めたり、言葉や数を用いて説明したりする。(図形)
- ・速さ・時間・道のりの関係を考察し、言葉や数を用いて説明したり、時間や道のりを求めたりする。(変化と関係)
- ・グラフやデータなどを読み取り、必要な資料を取り出したり、条件にあてはまる理由を言葉や数を用いて説明したりする。(データの活用)

◆成果が見られる点

- ◇「数と計算」に関する問題では、数量関係を式に表すことや、除数が小数の場合の除数と小の関係について理解することができています。
- ◇作成途中の直方体の見取図について正しい辺を選ぶことや、円柱の見取図から側面の長方形の横の長さを正しく選ぶことができています。
- ◇速さ・時間・道のりの関係から、決まった道のりを進むのにかかる時間を求めることができています。
- ◇グラフから割合を求めることや、表から必要なデータを読み取り、落ちや重なりがないように分類整理することができています。

◆課題が見られる点

- ◇計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察することに課題があります。
- ◇立体の空間認識や長さが等しい辺に着目して、問題を解決することに課題があります。
- ◇道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断し、言葉と数を用いて説明することに課題があります。
- ◇グラフやデータから読み取った内容をもとに、言葉や数を用いて説明することに課題があります。

◆指導改善のポイント

- ◇「数と式」では、計算の技能だけではなく、計算に関して成り立つ性質を活用するなど、計算の仕方を考察することが必要です。
- ◇「図形」では、異なる立体の組み合わせを取り上げるなど、立体の空間認識を深めることが必要です。
- ◇「変化と関係」では、資料から読み取った具体的な数量関係について、言葉や数を用いて説明する活動が必要です。
- ◇「データの活用」では、グラフなどから必要なデータを正確に読み取り、それをもとに言葉や数を用いて説明する活動が必要です。

(2) 質問紙調査

- ◇「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」「新聞を読んでいますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇5年生までの学習の中で、PC、タブレットなどのICT機器を活用することについて、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「算数の授業の内容はよく分かりますか」「理科の授業は好きですか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回っています。
- ◇5年生までの授業で、学んだことを生かして自分の考えをまとめたり、自分の考えがうまく伝わるように工夫することについての質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回っています。

3 中学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 2 数学では、正答率が全国平均をやや上回りました。
- 3 解答欄に記入がない無解答率は、全国平均より高くなっていました。

② 結果分析等の概要

□ 国 語

○調査問題の主な内容

- ・ 資料について話し合う場面から、内容を正しく説明しているものを選択したり、資料をもとにして、自分の考えを与えられた条件に合わせて書いたりする。
- ・ 文章の内容と図を結びつけたり、文章の内容を理解するために着目する内容を決めて、与えられた条件に合わせて要約したりする。
- ・ 物語を書くために集めた資料や下書きをもとに、語句の係り方を正しく選択したり、表現を工夫して物語の最後の場面を書いたりする。
- ・ 短歌に用いられる表現の技法を選択したり、時間の流れに沿って短歌の順番を並び替えたりする。
- ・ 文脈に即して漢字を正しく書く。

◆成果が見られる点

- ◇「言葉の特徴や使い方」に関する問題では、送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができています。
- ◇「話すこと・聞くこと」に関する問題では、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができています。
- ◇「我が国の言語文化」に関する問題では、行書の特徴を踏まえた書き方について理解ができています。

◆課題が見られる点

- ◇意見と根拠など、話し合いの流れから情報と情報との関係について把握することに課題があります。
- ◇話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることに課題があります。
- ◇文章の内容を理解するために着目する内容を決めて、与えられた条件に合わせて要約することに課題があります。
- ◇表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに課題があります。

◆指導改善のポイント

今後の学習指導に当たっては、情報と情報の関係を理解する指導や、自分の考えを表現の効果を考えて描写したり、与えられた条件に合わせてまとめたりする指導の充実が必要です。

□ 数 学

○調査問題の主な内容

- ・文字の式、等式の変形、回転移動、一次関数、確率などの基礎・基本の内容。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉え、目的に応じて式を変形したり、数学的な表現を用いて説明したりする。(数と式)
- ・与えられたデータを読み取り、最頻値を求めたり、四分位範囲を求めたりする。(データの活用)
- ・日常事象を数学的に解釈し、一次関数の性質を活用して問題を解決したり、解決の方法を数学的に説明したりする。(関数)
- ・筋道立てて考え証明したり、問題解決の過程から新たな性質を見いだしたりする。(図形)

◆成果が見られる点

- ◇「数と式」に関する問題では、正の数と負の数の加法の計算をしたり、等式の変形をしたりすることができています。
- ◇「関数」に関する問題では、 y 軸との交点（切片）の意味について理解し、問題を解決することができています。
- ◇「データの活用」に関する問題では、複数の集団のデータの分布から四分位範囲を比較して問題を解決することができています。

◆課題が見られる点

- ◇問題解決の方法を数学的に説明したり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。
- ◇問題解決の過程や結果の振り返りから新たな性質を見いだすことに課題があります。
- ◇与えられた条件から、筋道立てて考え、証明することに課題があります。

◆指導改善のポイント

- ◇発表や話し合いの場面などで、数学的に説明する習慣を身につけさせることが大切です。
- ◇問題解決の過程を発展的に捉えて、新たな性質を見いだす学習の取組が大切です。
- ◇合同条件などの証明に必要な条件の理解とともに、根拠を示しながら筋道立てて説明する学習の取組が必要です。

(2) 質問紙調査

- ◇「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回っています。
- ◇「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回っています。

4 今後の対策について

- 1 各校ごとに調査結果を分析し、自校の課題を把握するとともに、改善策について全教職員の共通理解を図り、組織的に学力向上に向けた取組を推進します。
- 2 G I G Aスクール構想の実現に向け、1人1台端末等、ICTの有効活用を一層推進するため、教員研修の実施や大型提示装置の利活用など、ソフト・ハードの両面からの支援を図ります。
- 3 図書館サポーターの派遣や、学校図書費の充実等により、子どもの読書活動の活性化を図り、問題解決能力育成の基礎となる読解力の向上を図ります。
- 4 市の指定研究事業の活性化を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するための、ICTを活用した授業改善に関する研究を進め、その成果を普及することで、市全体の教員の授業力向上を図ります。
- 5 基本的生活習慣や家庭学習の充実等に向けて、家庭との連携を図ると共に、各校のHPや学校だより等による情報提供に取り組みます。

